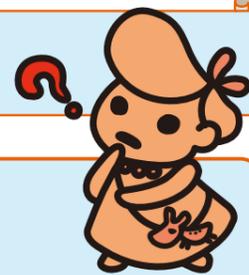


??伊勢国分寺跡の謎??



七重の塔はどこ?

瓦葺きの建物はとても重いため、建物の土台部分が沈まないように地面を固くする工事を行っています。特に背の高い塔は、この工事を念入りにする必要があります。

小院内で見つかった建物は、塔と同じ形をしていましたが、地面を固くする工事のあとが見つからなかったため、塔ではないといわれてきました。しかし、その後の奈良県などにあるお寺の発掘調査で、この工事をしていない塔が見つかってきました。このことから小院内で見つかった建物は塔と考えてよいでしょう。



上空からみた小院内の建物（白い線）



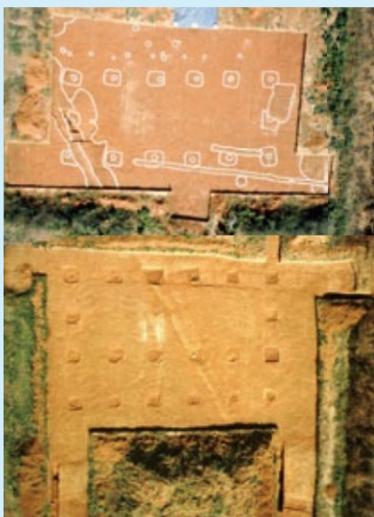
台形のレンガ（塼）

台形塼の謎?

瓦葺きの建物の土台（基壇）の周囲は石や瓦を積んで飾ります。伊勢国分寺ではレンガ（塼）が使われていました。このレンガは、断面の形が台形をしています。このような形のレンガは、全国でも伊勢国分寺にしかありません。どうして台形のレンガを使っていたのでしょうか？歴史公園の講堂では、土台の飾りが復元してあるので、レンガの積み方や断面の形を観察してみましよう。

何のための建物?

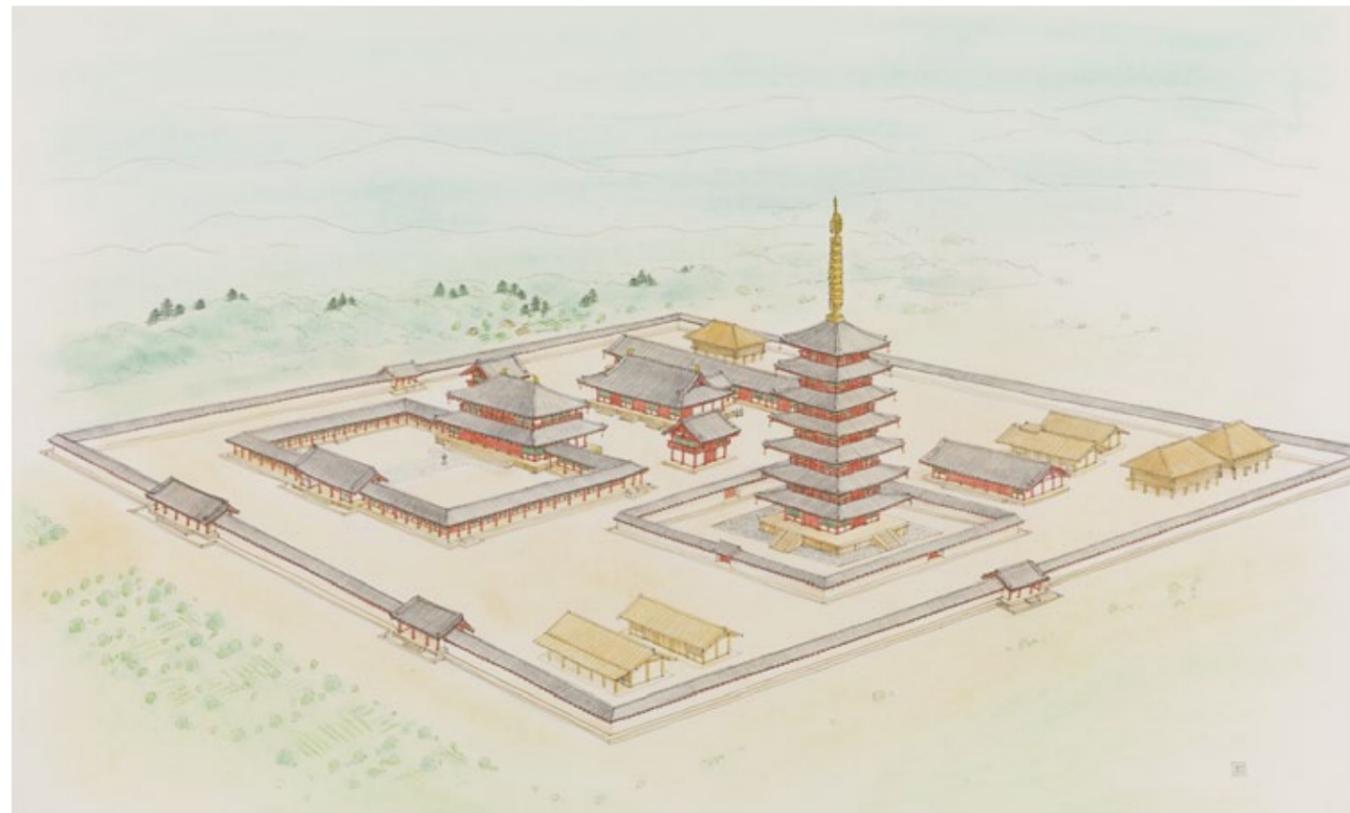
伊勢国分寺の南東隅には2棟の建物が並んでいました。国分寺がつくられた初めのころに建てられた建物です。発掘調査では、この建物の役割はわかりませんでした。金堂が完成するまでの仮のお堂や国分寺をつくる時の事務所などの可能性が考えられています。



上空からみた建物

史跡

伊勢国分寺跡



伊勢国分寺復元イラスト 早川和子氏画

伊勢国分寺跡

今から1,300年ほど前、奈良に都がおかれていた時代、自然災害がおこり、伝染病がひろがるなど人々は苦しい生活をしていました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの苦しみから人々を救おうとして、全国にお寺を建てることを命令しました。この命令によって建てられたお寺が「国分寺」です。国分寺はその地域の中でも、きれいな場所で、人々が行きやすい場所が選ばれて建てられました。国分寺の建物は、屋根に瓦を葺き、柱は赤く塗られていました。このころ、瓦葺きの建物は、お寺と役所の建物だけでした。立派な建物の国分寺を見た人々は、国と仏教の力を信じたことでしょう。



寺谷みこ ©

伊勢国につくられた国分寺は、大正11（1922）年、特に大切な遺跡（史跡）として国に認められました。伊勢国分寺のある国分町は高台にあって眺めがよく、水害の心配がない場所です。伊勢国分寺は、発掘調査の成果をもとに令和2（2020）年4月、歴史公園として生まれ変わりました。

鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224
TEL059-374-1994 FAX059-374-0986
E-mail: kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp
URL: http://www.city.suzuka.lg.jp/kouko/

史跡伊勢国分寺跡歴史公園

Ise-Kokubunji Site Historical Park

史跡 伊勢国分寺跡歴史公園を歩こう！

僧坊 お坊さんが暮らしていた建物です。国分寺では、20人のお坊さんが修行していました。

講堂 お坊さんが仏教について学んでいた建物です。



発掘調査では、建物の土台（基壇）と飾りに使ったレンガ（磚）や瓦、階段の跡が見つかりました。

歴史公園の講堂は、土台のあった場所に土を盛って、その大きさがわかるようにしています。当時の土台の高さは、1m以上ありました。土台の上に置かれた柱を支えるための石（礎石）や土台の周囲を飾ったレンガ、階段の跡を復元しています。石は本物が2個残っていて、ほかは本物によく似た石を代わりに置いています。

金堂 仏像が置かれていた建物です。

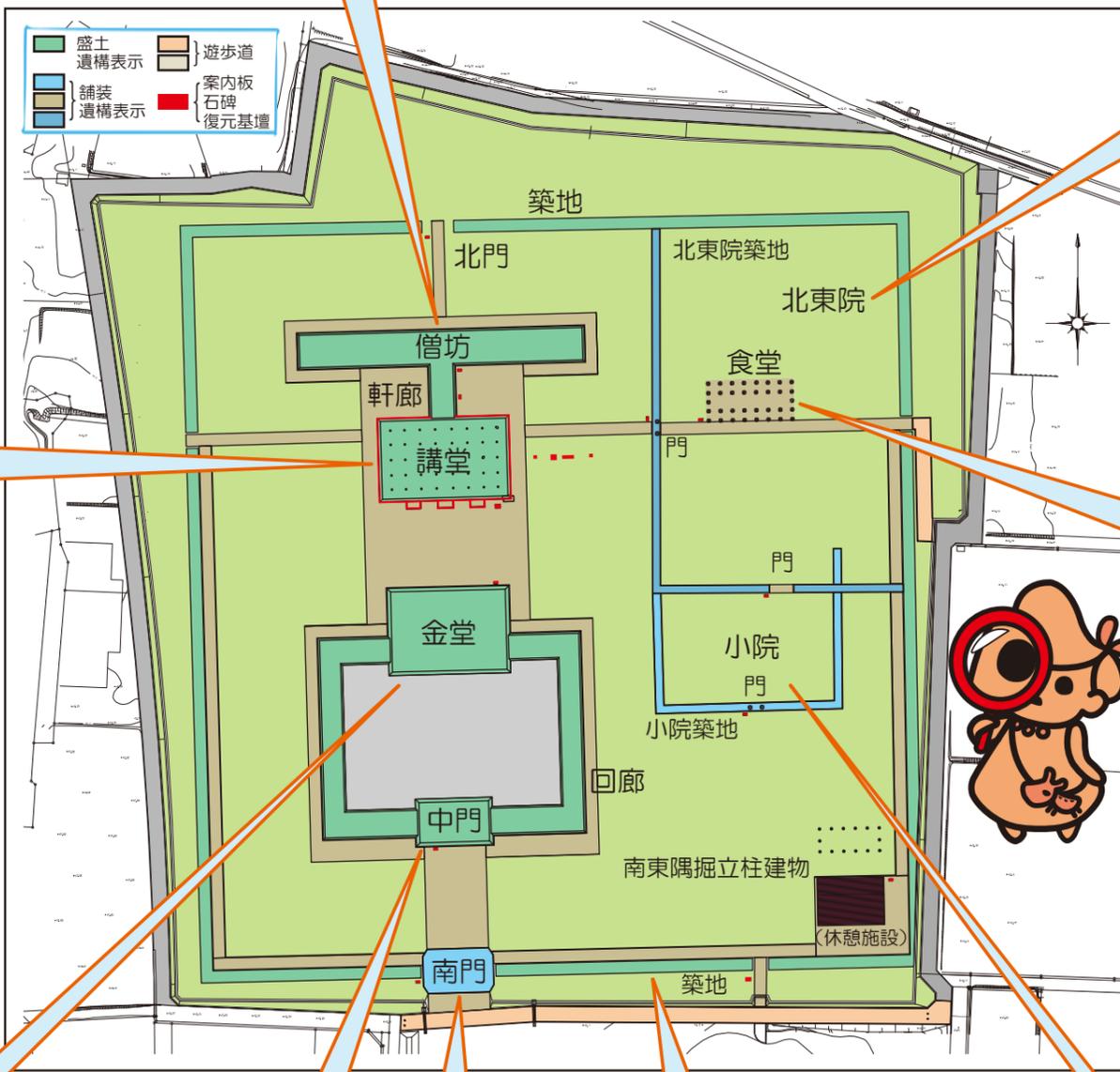


発掘調査で見つかった地下の地盤改良工事の様子です。

経蔵・鐘楼 経蔵はお経などを保管していた建物、鐘楼は時を告げる鐘を吊り下げていた建物です。お寺に必要な建物ですが、残念ながら、伊勢国分寺では見つかりません。

中門・回廊・金堂・講堂・僧坊・築地は土を盛って高くして、建物の場所と大きさがわかるようにしています。南門・食堂・小院築地・北東院築地は舗装で場所がわかるようにしてあります。歴史公園の休憩施設は、見つかった2棟の建物の柱があった場所にあわせて建物を建て、腰かけをおいています。

※盛土の高さは、当時の建物の土台（基壇）の高さを復元しているものではありません。

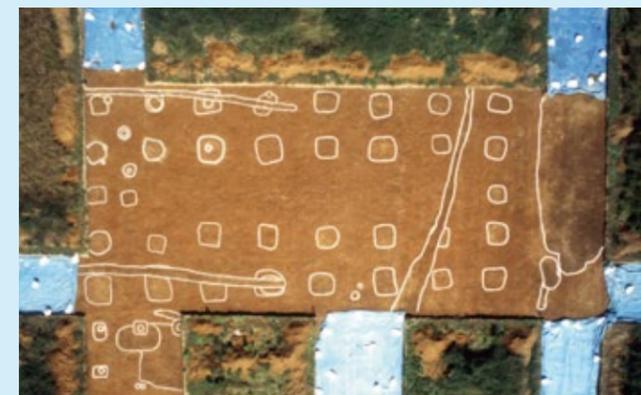


北東院 平安時代の初めごろ、小院から新しく作り変えてできた場所です。全体の東側約1/3のうち、北側を塀によって囲みます。塀には、講堂や南に向かって出入りできる門がありました。

809（大同4）年に志摩国分寺のお坊さんが伊勢国分寺で修行することになりました。このことを理由にして、この場所がつくられたのかもしれません。

食堂 お坊さんが食事をしていた建物です。

大きな建物が見つかりました。周辺から調理に使った土器や塩の入れものが見つかりました。



発掘調査で見つかった柱の跡（白い線）です。歴史公園では、この柱の形・場所を舗装でわかるようにしています。

小院 一辺約47mの塀（北辺は未確認）で囲まれています。その中には一辺約26mのほぼ正方形の建物が見つかりました。

塔 お釈迦様の遺骨（舍利）が置かれていた建物です。実際には遺骨に代わる宝物やお経などが納められていました。聖武天皇は、七重の塔のある国分寺は「国の華（国の誇り）」であるといっています。塔は国分寺の中でも大切な建物です。

南門・中門 南門は国分寺の正面玄関、中門は金堂を囲む廊下（回廊）につけられた門です。

築地 土を突き固めて作った塀です。塀の上には瓦をのせて飾り、高さは3m以上ありました。国分寺の中には一般の人は入ることはできませんでした。

軒瓦 国分寺の屋根には瓦が葺かれていました。軒先には蓮やつる草の文様で飾られた瓦が使われていました。
※実物は常設展示室にあります。

